

# 株主メモ

■ 決算期	毎年3月31日
■ 配当金受領者確定日	利益配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
■ 定時株主総会	毎年6月
■ 基準日	定時株主総会 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定める。
■ 公告掲載紙	東京都内で発行される日本経済新聞
■ 1単元の株式数	1,000株
■ 単元未満株式の買取・買増請求受付場所	下記の名義書換代理人、同事務取扱所及び同取次所 実質株主は、参加者及び証券保管振替機構を経由する。
■ 上場証券取引所	東京、大阪、名古屋、福岡、札幌 ※名古屋、福岡、札幌の各証券取引所については平成17年12月中旬に上場廃止予定。
■ 証券コード	3861
■ 名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)3323-7111(代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店

各種手続用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル又はホームページをご利用ください。

- フリーダイヤル 0120-87-2031
- ホームページアドレス [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

ホームページアドレス  
<http://www.ojipaper.co.jp>

当社では、王子製紙グループ企業行動報告書を作成しており、ご希望の方にお送りしております。なお、当社ホームページにも掲載しておりますので、是非ご覧ください。



OJI PAPER

表紙 **ブナ黄葉  
打波(福井県) 社有林**

この報告書は、当社の「OKトリニティNaVi(104.7g/m<sup>2</sup>)」を使用しております。

## 株式のお取扱いについてのご案内

### 配当金振込制度について

株主様ご所有の株式に対する配当金(中間配当金を含む)の受領方法には、郵便振替支払通知書による方法のほかにご指定の**銀行預金**もしくは**郵便貯金口座(通常貯金口座)**へ自動的に振込入金する方法がございます。確実に配当金を受領いただけますので、是非この振込制度をご利用されることをおすすめいたします。配当金振込をご利用される場合は、所定の「配当金振込指定書」に必要事項を記入、お届出印を押印のうえ、名義書換代理人宛て提出ください。「配当金振込指定書」のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル又はホームページをご利用ください。

### 単元未満株式の買増制度について

当社は「単元未満株式の買増制度」を導入しております。これにより、単元未満株式を有する方は、当社に対しその単元未満株式の数と併せて1単元(1,000株)になる数の株式を買増請求することができますのでご利用ください。なお、買増請求につきましては、毎年3月31日及び9月30日を含む各々それ以前の12営業日の間受付を停止させていただくほか、当社が別途必要と認める場合受付停止期間を設ける場合がありますので、お手続きなどの詳細につきましては名義書換代理人宛て照会ください。

また、保管振替制度ご利用の場合のお取扱いは、お取引証券会社宛て照会ください。

# 第82期 中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日



王子製紙株式会社

# 株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。  
平成17年4月1日から平成17年9月30日までの当社第82期中間期の事業概況をご報告申し上げます。

## 当中間期の業績と中間配当

景気が緩やかに回復しているなか、王子製紙グループは、引き続き販売価格の維持を最優先とした営業活動を推進するとともに、経費節減はもとより省エネルギー、省力化をはじめとする経営全般にわたる原価低減諸施策を強力に実施しましたが、原燃料価格高騰の影響を補えず、連結経常利益は前年同期に比し減益となりました。また、固定資産の減損会計の適用に伴う減損損失を特別損失に計上したこともあり、連結中間純利益は前年同期に比し、大幅な減益となりました。  
当中間期の業績は、左記のとおりとなりました。

連結の各事業部門の状況は、次のとおりであります。

紙パルプ製品事業
<b>【紙(一般洋紙・包装用紙・雑種紙・衛生用紙他)】</b>
新聞用紙の販売は、国内向けは衆議院選挙による需要増で増加しましたが、輸出は減少しました。
印刷用紙の販売は、微塗工紙はチラシ、カタログなどの商業印刷向けを中心に好調に推移しましたが、塗工紙は高級印刷物などの需要減により低調に推移しました。価格については、市況品種を中心に昨秋に復元した価格の維持に努めましたが、全体的に弱含みで推移しました。
衛生用紙はティシュペーパー、トイレットロールともに販売は大幅に増加しましたが、価格は市況の悪化により下落しました。
<b>【板紙(段ボール原紙・白板紙・高級白板紙)、パルプ】</b>
段ボール原紙の販売は、微減となりました。価格は弱含みで推移しました。
白板紙・高級白板紙の販売は、国内向けは堅調、輸出は低調に推移しました。価格は一昨年に復元した価格の維持に努めました。
紙加工製品事業
<b>【段ボール(段ボールシート・段ボールケース)、紙器、感熱記録紙、粘着紙、紙おむつ、紙袋製品他】</b>
段ボールの販売は、微増となりました。価格は横ばいで推移しました。
感熱記録紙の販売は、輸出が減少しました。価格は横ばいで推移しました。

## 第82期中間決算ハイライト (平成17年4月1日～平成17年9月30日)

	当中間期(百万円)	前年同期比(%)
連結売上高	573,304	△3
■ 紙パルプ製品事業	337,280	△4
■ 紙加工製品事業	169,871	△1
■ 木材・緑化事業	22,336	△9
■ その他の事業	43,815	5
連結営業利益	34,861	△7
■ 紙パルプ製品事業	22,995	△10
■ 紙加工製品事業	6,260	△18
■ 木材・緑化事業	878	91
■ その他の事業	4,727	23
連結経常利益	32,601	△11
連結税引前中間純利益	11,289	△63
連結中間純利益	5,581	△71
単独売上高	274,088	△11
単独営業利益	13,662	△27
単独経常利益	17,509	△6
単独税引前中間純利益	10,832	△26
単独中間純利益	8,046	△7

## 木材・緑化事業

### 【木材・緑化、造林】

木材事業において製材品の受注が減少したことなどにより、売上高が減少しました。

## その他の事業

### 【不動産、機械、物流、その他】

物流事業などの売上高は増加しました。

中間配当金につきましては、前年同期と同じく、1株につき6円と決定させていただきました。

## 今後の取り組み

### ●グループ経営力の強化

王子製紙グループは、事業の統合・再編など収益力強化の諸施策を積極的に推進するとともに、内外の厳しい競争に勝ち抜く企業体質の確立に努め、総合製紙企業グループとして一層の飛躍を図ってまいります。

段ボール事業においては、本年10月に王子コンテナ株式会社とチヨダコンテナ株式会社が合併して発足した王子チヨダコンテナ株式会社を中心とした業界第二位の当社グループに、業界第三位の森紙業グループを加え、シナジー効果の発現によるコストダウンの追求、事業拠点のさらなる全国展開による一層きめ細かいユーザーサービスの提供などを通じて、段ボール事業の競争力の強化へ向けて取り組んでまいります。

また、本年7月に欧州のインクジェット用紙専業メーカーであるILFORD Imaging Switzerland GmbHを買収し、今後高い成長が期待される写真市場向けインクジェット用紙分野で世界のトップ企業を目指します。

さらに、すべての事業分野においてコスト競争力を一層強化するとともに、顧客ニーズの把握に努め、新たな発想による「新技術・新製品・新サービス」の開発と事業化を推進し、安定的な収益力の確保に努めます。

### ●アジアへの展開

国内市場が成熟するなかで、アジア地域とりわけ成長性のある中国への事業展開を図り、21世紀もたくましく成長する王子製紙グループを目指し、これに邁進しております。

現在、中国市場で展開している情報用紙、包装用紙、衛生用紙、段ボールなどの各事業については、一層の収益力強化を図ってまいります。

また、中国江蘇省南通市での塗工紙・上質紙の生産工場建設計画については、本計画の大前提である許認可に係る作業を遺漏なく進めるとともに、中国の市場動向等諸情勢の適切な把握に努めながら、本計画の着実な推進を図ってまいります。

### ●コーポレート・ガバナンスの強化

経営の効率性、健全性および透明性を確保し、企業価値の継続的な向上と社会から信頼を得るため、執行役員制度の導入、社外監査役の選任による業務執行および監査機能の強化を図るとともに、業務執行組織の権限および責任の明確化による内部牽制機能の確立ならびに法令遵守、適切な情報開示などコンプライアンスの徹底に努めるなど、コーポレート・ガバナンスの強化を経営上の最重要課題の一つと位置付け、引き続き体制を整備してまいります。業務執行組織とは別に、取締役会に直結する「内部統制管理委員会」を設置し、これにより、内部統制に係る重大リスクへの対応に対する検証、評価および内部統制システムの機能に対する検証、評価を行ってまいります。

### ●地球環境への貢献

「王子製紙環境憲章」に基づく「森のリサイクル」、「紙のリサイクル」を引き続き推進し、循環型社会の構築を着実に図ってまいります。同時に更なる省エネルギー、エネルギー転換を推進して化石燃料の使用量を削減し、地球温暖化防止など広く地球的視点に立った企業活動を展開してまいります。

また、国内社有林を地域に開放して「王子の森・自然学校」を開催するなど、森づくりを通じて、さまざまな社会貢献の取り組みを進めてまいります。

今後とも、株主の皆様のご要望、ご期待にそえるよう努力いたす所存でありますので、格別のご理解をいただき、よろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年11月

代表取締役社長

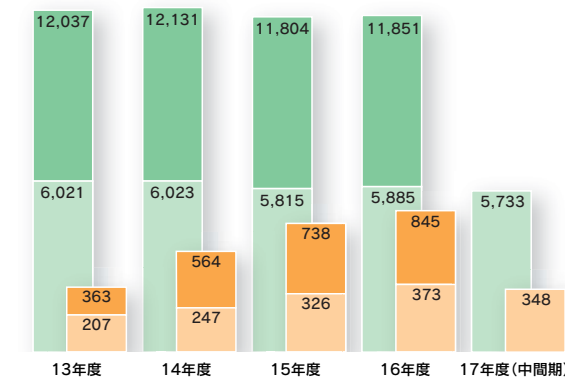
鈴木正一郎

# 経営指標の推移(連結)

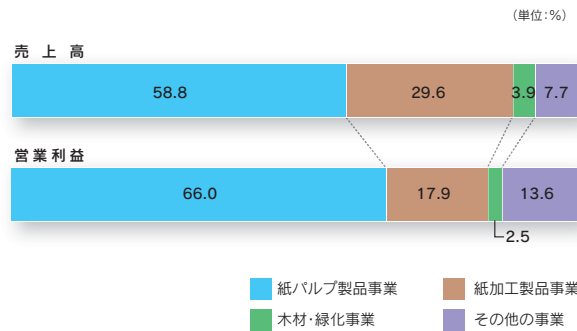
## 売上高・営業利益

(単位:億円)

売上高(年度) 営業利益(年度)  
 売上高(中間) 営業利益(中間)

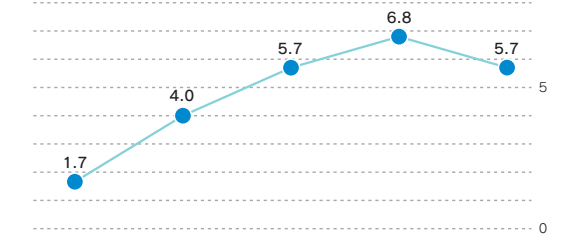


## 事業部門別構成比(17年度中間期)



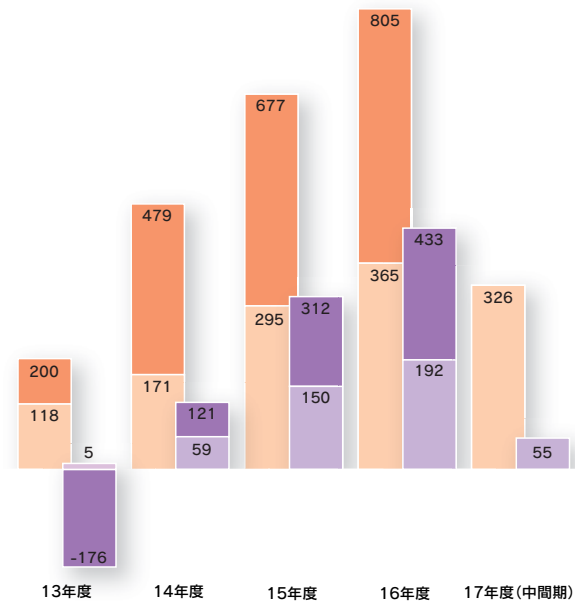
## 経常利益・当期純利益・売上高経常利益率

● 売上高経常利益率 (単位:%)



(単位:億円)

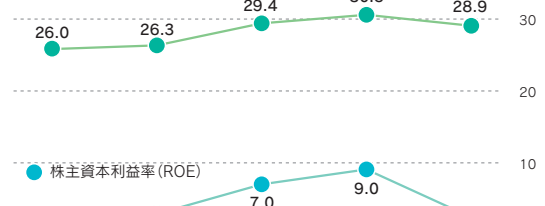
経常利益(年度) 当期純利益(年度)  
 経常利益(中間) 当期純利益(中間)



(注)・売上高経常利益率=経常利益÷売上高×100

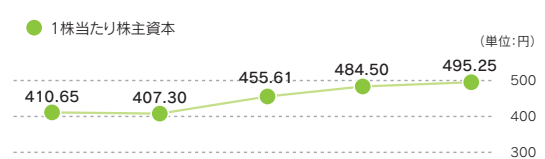
## 総資産・株主資本・株主資本比率・株主資本利益率(ROE)・1株当たり株主資本

● 株主資本比率 (単位:%)



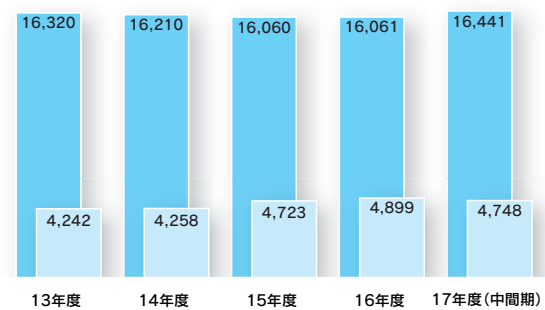
(単位:%)

株主資本利益率(ROE)



(単位:円)

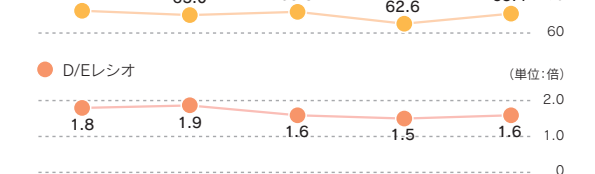
● 1株当たり株主資本



(注)・株主資本利益率(ROE)=純利益÷(前期末、当期末の株主資本の平均)×100  
 (ただし、17年度(中間期)は純利益を2倍して計算しております。)

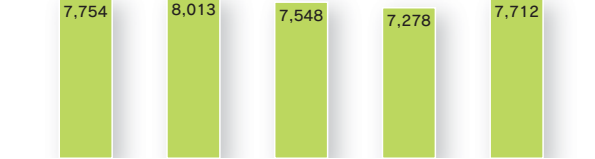
## 有利子負債・売上高有利子負債比率・D/Eレシオ

● 売上高有利子負債比率 (単位:%)



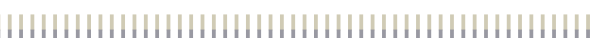
(単位:倍)

● D/Eレシオ



(単位:億円)

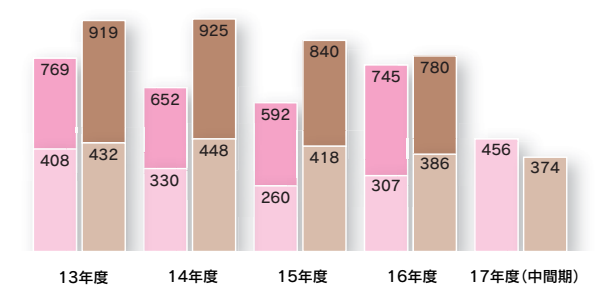
● 有利子負債



## 設備投資額・減価償却費

(単位:億円)

● 設備投資(年度) ● 減価償却費(年度)  
 ● 設備投資(中間) ● 減価償却費(中間)



## 王子製紙グループ段ボール事業の再編

### 王子チヨダコンテナ株式会社が発足

当社の子会社である王子コンテナ株式会社とチヨダコンテナ株式会社は本年10月1日に合併し、王子チヨダコンテナ株式会社として新たにスタートいたしました。

同社は全国に31の直営工場と30以上の段ボール関連会社を配し、原紙から加工までの一貫体制のもと、広範囲な分野にわたる王子製紙グループ各事業部門とのネットワークを活かしながら、地域に根づいた営業活動を展開してまいります。

### 森紙業グループのグループ化

当社は、このたび株式交換などにより森紙業グループ各社の株式を取得することとなりました。

これにより、全国に事業拠点を持つ段ボール業界第三位の森紙業グループが同業界第二位の当社グループに加わることになりました。シナジー効果の発現によるコストダウンを行い、事業拠点のさらなる全国展開による一層きめ細かいユーザーサービスを展開してまいります。



## 欧州インクジェット用紙専門メーカーを買収

本年7月1日に買収したILFORD Imaging Switzerland GmbHは、銀塩写真に代わるRC(レジンコート)光沢タイプのデジタル写真プリント用紙の開発、販売を行っております。

王子製紙グループは、予てよりインクジェット用紙の強化・拡大を図っており、今回の買収により高級インクジェット用紙においてキャスト光沢とRC光沢タイプの両品種で総合的な品揃えと高いシェアを有することになり、今後高い成長が期待される写真市場向けインクジェット用紙分野で世界のトップ企業を目指します。



ILFORD Imaging Switzerland GmbH

## 中国市場での新事業展開

江蘇省南通市での塗工紙・上質紙の生産工場建設計画については、引き続き、クラフトパルプ製造設備を含む第2期、第3期プロジェクトの申請作業を進めており、現在、国家発展改革委員会で審査中であります。今後、同委員会の審査を経て、国务院より認可を受ける予定であります。

当社の子会社であり、パルプ製不織布の製造、販売を行っている王子キノクロス株式会社の100%出資子会社である「王子奇能紙業(上海)有限公司」は本年6月に操業を開始し、クッキングペーパー、紙おしぼりおよび衛生材料用原紙の営業を開始いたしました。

当社の子会社である王子製袋株式会社は、軽包装袋の製造、販売子会社として「上海東王子包装有限公司」を設立し事業展開しておりますが、これに加え新たに重包装袋の製造、販売を行う100%出資子会社である「王子包装(上海)有限公司」を本年7月に設立し、事業開始に向けて準備中であります。



王子奇能紙業(上海)有限公司

## 技術力が生み出した洋紙主力製品

### これからの時代を担う 新世代コート紙「OKトップコート+」

高い印刷光沢を備え、革新的な技術によりインキ乾燥時間を大幅に短縮した「OKトップコート+」。印刷作業性、印刷再現性を高次元で両立させた汎用性の高いA2コート紙「OKトップコート+」はあらゆる分野の印刷物に使用が可能な塗工紙です。



### ヒジワを極限まで抑えるノンリンクルシリーズ

高速・大量印刷が可能なオフセット輪転印刷で発生する印刷面の「ヒジワ」を極限まで抑えた塗工紙です。低米坪の軽量塗工紙についても、出版物から商業印刷まであらゆる用途に活用できる製品をご用意しております。



## 新製品紹介



### ビール用美粧段ボール

従来の美粧段ボールケースに比べ、より高度の美粧性を実現し店頭陳列効果が一段と向上しました。  
表側の段ボール原紙を白板紙に替えて、プレプリント美粧印刷を施しました。



### 鼻セレブティッシュ

今年はシロクマバージョンが新登場。「ダブル保湿」でしっかりとやわらかな鼻ざわり。

### ネピア「鼻セレブ」シリーズ

風邪・花粉症の方々にご愛用いただいている保湿ティッシュ、それがネピア「鼻セレブ」です。

### 鼻セレブウェット

メントール配合でサッパリ、ダブル潤い成分でしっとり。シートはコットン100%。肌にやさしく馴染みます。



## 時代のニーズに対応、王子製紙の新書籍用紙

書籍用紙では、柔らかな紙感とこれまでにない高(かさ)高を実現し、褪色性についても大幅に改良を加えたセミ上質書籍用紙「OKサワークリーム」を本年4月に、従来のツヤ品にはない高品位と高い不透明度を兼ね備えた上質書籍用紙「OKライトクリーム・ツヤ」を本年9月にそれぞれ上市し、いずれも好評をいただいております。



王子製紙グループ製品紹介サイト「OJI GROUP SOLUTIONS」でグループ各社の新製品などをわかりやすく紹介しています。是非こちらもご覧ください。

<http://www.ojigroup.net>



# 中間連結財務諸表

## 貸借対照表

単位:百万円(単位未満切り捨て)

	当期中間期			前期中間期			比較
	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在		平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在		
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>511,203</b>	<b>498,966</b>	<b>12,236</b>	<b>流動負債</b>	<b>613,351</b>	<b>589,336</b>	<b>24,015</b>
現金及び預金	36,578	44,769	△ 8,191	支払手形及び買掛金	181,413	183,499	△ 2,085
受取手形及び売掛金	285,355	276,345	9,009	短期借入金	211,317	210,447	869
有価証券	0	49	△ 48	コマーシャルペーパー	140,000	95,000	45,000
たな卸資産	146,081	136,469	9,612	1年内償還社債	-	20,000	△ 20,000
その他	45,124	42,426	2,697	その他	80,620	80,389	231
貸倒引当金	△ 1,937	△ 1,094	△ 843	<b>固定負債</b>	<b>549,922</b>	<b>520,849</b>	<b>29,072</b>
<b>固定資産</b>	<b>1,132,994</b>	<b>1,107,204</b>	<b>25,789</b>	社債	160,000	160,000	-
有形固定資産	(863,010)	(871,415)	(△ 8,405)	長期借入金	259,367	241,450	17,916
建物及び構築物	207,260	215,014	△ 7,753	退職給付引当金	60,651	63,374	△ 2,722
機械装置及び運搬具	355,831	351,797	4,033	役員退職慰労引当金	2,189	2,531	△ 341
土地及び林地	228,767	235,239	△ 6,471	その他	67,713	53,494	14,219
その他	71,150	69,363	1,786	<b>負債合計</b>	<b>1,163,274</b>	<b>1,110,186</b>	<b>53,087</b>
無形固定資産	(13,399)	(10,641)	(2,758)	<b>少数株主持分</b>	<b>6,095</b>	<b>6,043</b>	<b>51</b>
借地権	2,332	2,425	△ 92	<b>資本の部</b>			
連結調整勘定	1,604	480	1,124	資本金	103,880	103,880	-
その他	9,462	7,735	1,726	資本剰余金	110,178	110,179	△ 0
投資その他の資産	(256,584)	(225,148)	(31,436)	利益剰余金	266,641	267,855	△ 1,213
投資有価証券	227,533	197,573	29,960	土地再評価差額金	3,825	6,614	△ 2,789
その他	30,819	29,203	1,616	その他有価証券評価差額金	51,784	35,669	16,115
貸倒引当金	△ 1,768	△ 1,628	△ 140	為替換算調整勘定	△ 3,523	△ 6,045	2,522
				自己株式	△ 57,959	△ 28,212	△ 29,747
<b>資産合計</b>	<b>1,644,197</b>	<b>1,606,171</b>	<b>38,026</b>	<b>資本合計</b>	<b>474,828</b>	<b>489,941</b>	<b>△ 15,113</b>
				<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>1,644,197</b>	<b>1,606,171</b>	<b>38,026</b>

(注)有形固定資産の減価償却累計額 1,760,974百万円(前期1,715,342百万円)

## 損益計算書

単位:百万円(単位未満切り捨て)

	当期中間期		比較
	平成17年4月1日から平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	
売上高	573,304	588,500	△ 15,196
売上原価	432,437	436,697	△ 4,259
<b>売上総利益</b>	<b>140,866</b>	<b>151,803</b>	<b>△ 10,936</b>
販売費及び一般管理費	106,004	114,416	△ 8,411
<b>営業利益</b>	<b>34,861</b>	<b>37,386</b>	<b>△ 2,524</b>
営業外収益	3,844	5,846	△ 2,002
受取利息及び配当金	1,665	1,321	344
持分法による投資利益	-	1,683	△ 1,683
賃貸料	584	500	83
その他	1,593	2,340	△ 746
営業外費用	6,104	6,698	△ 593
支払利息	4,626	4,929	△ 302
持分法による投資損失	243	-	243
その他	1,235	1,769	△ 533
<b>経常利益</b>	<b>32,601</b>	<b>36,534</b>	<b>△ 3,933</b>
特別利益	945	228	717
固定資産売却益	917	228	689
投資有価証券売却益	28	0	28
特別損失	22,256	6,255	16,001
減損損失	12,850	-	12,850
固定資産除却損	2,739	2,928	△ 189
特別退職金	2,244	1,832	412
工場閉鎖損失	1,695	-	1,695
環境安全対策引当金繰入額	1,217	-	1,217
その他	1,509	1,494	15
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>11,289</b>	<b>30,507</b>	<b>△ 19,217</b>
法人税、住民税及び事業税	6,651	3,279	3,371
法人税等調整額	△ 1,174	7,558	△ 8,732
少数株主利益	231	373	△ 142
<b>中間純利益</b>	<b>5,581</b>	<b>19,295</b>	<b>△ 13,714</b>

## 剰余金計算書

単位:百万円(単位未満切り捨て)

	当期中間期		比較
	平成17年4月1日から平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	
<b>資本剰余金の部</b>			
資本剰余金期首残高	110,179	110,168	110,168
資本剰余金増加高	-	8	10
自己株式処分差益	-	8	10
資本剰余金減少高	0	-	-
自己株式処分差損	0	-	-
<b>資本剰余金中間期末(期末)残高</b>	<b>110,178</b>	<b>110,176</b>	<b>110,179</b>
<b>利益剰余金の部</b>			
利益剰余金期首残高	267,855	237,208	237,208
利益剰余金増加高	5,581	19,474	43,535
中間(当期)純利益	5,581	19,295	43,349
合併による剰余金増加高	-	-	7
連結子会社増加による剰余金増加高	-	178	178
利益剰余金減少高	6,795	6,570	12,888
配当金	6,069	6,220	12,378
役員賞与	276	265	265
土地再評価差額金取崩額	113	-	147
連結子会社増加による剰余金減少高	256	-	-
連結子会社減少による剰余金減少高	78	84	97
<b>利益剰余金中間期末(期末)残高</b>	<b>266,641</b>	<b>250,112</b>	<b>267,855</b>

## キャッシュ・フロー計算書(要約)

単位:百万円(単位未満切り捨て)

	当期中間期		比較
	平成17年4月1日から平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,778	24,578	9,199
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 45,752	△ 32,579	△ 13,173
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,229	10,951	△ 8,721
現金及び現金同等物に係る換算差額	738	209	529
現金及び現金同等物の増減額	△ 9,005	3,160	△ 12,166
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>44,521</b>	<b>32,609</b>	<b>11,911</b>
新規連結による現金及び現金同等物増加額	975	275	700
連結除外による現金及び現金同等物減少額	△ 172	△ 38	△ 133
<b>現金及び現金同等物の中間期末残高</b>	<b>36,319</b>	<b>36,006</b>	<b>312</b>

# 中間単独財務諸表

## 貸借対照表

	当中間期			前期			比較
	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在		平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在		
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>488,189</b>	<b>464,539</b>	<b>23,649</b>	<b>流動負債</b>	<b>458,231</b>	<b>429,442</b>	<b>28,788</b>
現金及び預金	15,923	24,898	△ 8,975	支払手形	373	753	△ 380
受取手形	2,329	3,169	△ 840	買掛金	91,642	89,446	2,195
売掛金	120,553	112,251	8,302	短期借入金	184,288	180,830	3,458
たな卸資産	66,075	60,437	5,637	コマーシャルペーパー	140,000	95,000	45,000
短期貸付金	258,798	239,206	19,592	1年内償還社債	-	20,000	△ 20,000
その他	25,910	25,220	689	未払法人税等	1,861	6,313	△ 4,451
貸倒引当金	△ 1,401	△ 644	△ 757	その他	40,065	37,098	2,966
<b>固定資産</b>	<b>860,587</b>	<b>834,384</b>	<b>26,203</b>	<b>固定負債</b>	<b>465,586</b>	<b>432,127</b>	<b>33,459</b>
有形固定資産	(453,961)	(451,711)	(2,249)	社債	160,000	160,000	-
建物	85,841	87,114	△ 1,272	長期借入金	237,475	213,105	24,370
機械装置	204,635	197,650	6,984	退職給付引当金	34,200	36,236	△ 2,036
土地	81,543	83,232	△ 1,689	役員退職慰労引当金	1,256	1,428	△ 172
建設仮勘定	9,996	12,436	△ 2,439	環境安全対策引当金	402	-	402
その他	71,944	71,278	666	特別修繕引当金	36	42	△ 6
				その他	32,216	21,314	10,901
無形固定資産	(2,906)	(2,635)	(271)	<b>負債合計</b>	<b>923,818</b>	<b>861,570</b>	<b>62,247</b>
無形固定資産	2,906	2,635	271	<b>資本の部</b>			
投資その他の資産	(403,719)	(380,037)	(23,682)	資本金	103,880	103,880	-
投資有価証券	145,073	118,948	26,125	資本剰余金	108,659	108,659	△ 0
関係会社株式	206,873	208,912	△ 2,038	資本準備金	108,640	108,640	-
長期貸付金	22,326	24,041	△ 1,714	その他資本剰余金	19	19	△ 0
その他	30,784	28,530	2,254	利益剰余金	223,061	221,231	1,830
貸倒引当金	△ 1,339	△ 395	△ 944	利益準備金	24,646	24,646	-
				任意積立金	168,040	166,395	1,644
<b>資産合計</b>	<b>1,348,777</b>	<b>1,298,924</b>	<b>49,852</b>	中間(当期)未処分利益	30,374	30,188	185
				その他有価証券評価差額金	49,157	33,652	15,504
				自己株式	△ 59,801	△ 30,070	△ 29,730
				<b>資本合計</b>	<b>424,958</b>	<b>437,353</b>	<b>△ 12,395</b>
				<b>負債及び資本合計</b>	<b>1,348,777</b>	<b>1,298,924</b>	<b>49,852</b>

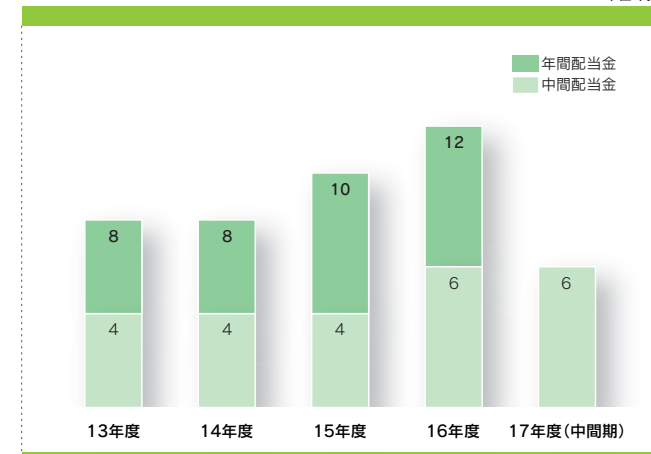
(注) 有形固定資産の減価償却累計額 1,152,444百万円(前期1,138,140百万円)

## 損益計算書

	当中間期		比較
	平成17年4月1日から平成17年9月30日まで	平成16年4月1日から平成16年9月30日まで	
売上高	274,088	309,449	△35,360
売上原価	206,711	225,803	△19,091
<b>売上総利益</b>	<b>67,377</b>	<b>83,645</b>	<b>△16,268</b>
販売費及び一般管理費	53,715	64,825	△11,110
<b>営業利益</b>	<b>13,662</b>	<b>18,820</b>	<b>△5,158</b>
営業外収益	8,489	4,890	3,599
受取利息及び配当金	6,216	2,273	3,942
その他	2,273	2,616	△343
営業外費用	4,641	5,032	△390
支払利息	3,953	4,044	△91
その他	688	987	△299
<b>経常利益</b>	<b>17,509</b>	<b>18,678</b>	<b>△1,168</b>
特別利益	2,742	256	2,485
固定資産売却益	2,742	256	2,485
投資有価証券売却益	0	-	0
特別損失	9,419	4,230	5,188
子会社株式評価損	3,493	-	3,493
特別退職金	1,649	1,595	53
貸倒引当金繰入額	1,538	273	1,265
固定資産除却損	1,353	1,504	△151
減損損失	840	-	840
環境安全対策引当金繰入額	402	-	402
その他	143	857	△714
<b>税引前中間純利益</b>	<b>10,832</b>	<b>14,704</b>	<b>△3,871</b>
法人税、住民税及び事業税	2,105	40	2,065
法人税等調整額	681	6,036	△5,355
<b>中間純利益</b>	<b>8,046</b>	<b>8,627</b>	<b>△580</b>
前期繰越利益	22,328	14,265	8,062
<b>中間未処分利益</b>	<b>30,374</b>	<b>22,892</b>	<b>7,481</b>

(注) 租税特別措置法の規定に基づく積立金の当中間期において積立るべき金額は、次のとおりであります。  
 固定資産圧縮積立金 1,298百万円  
 特別償却準備金 114百万円  
 海外投資等損失準備金 152百万円

## 1株当たり配当金推移

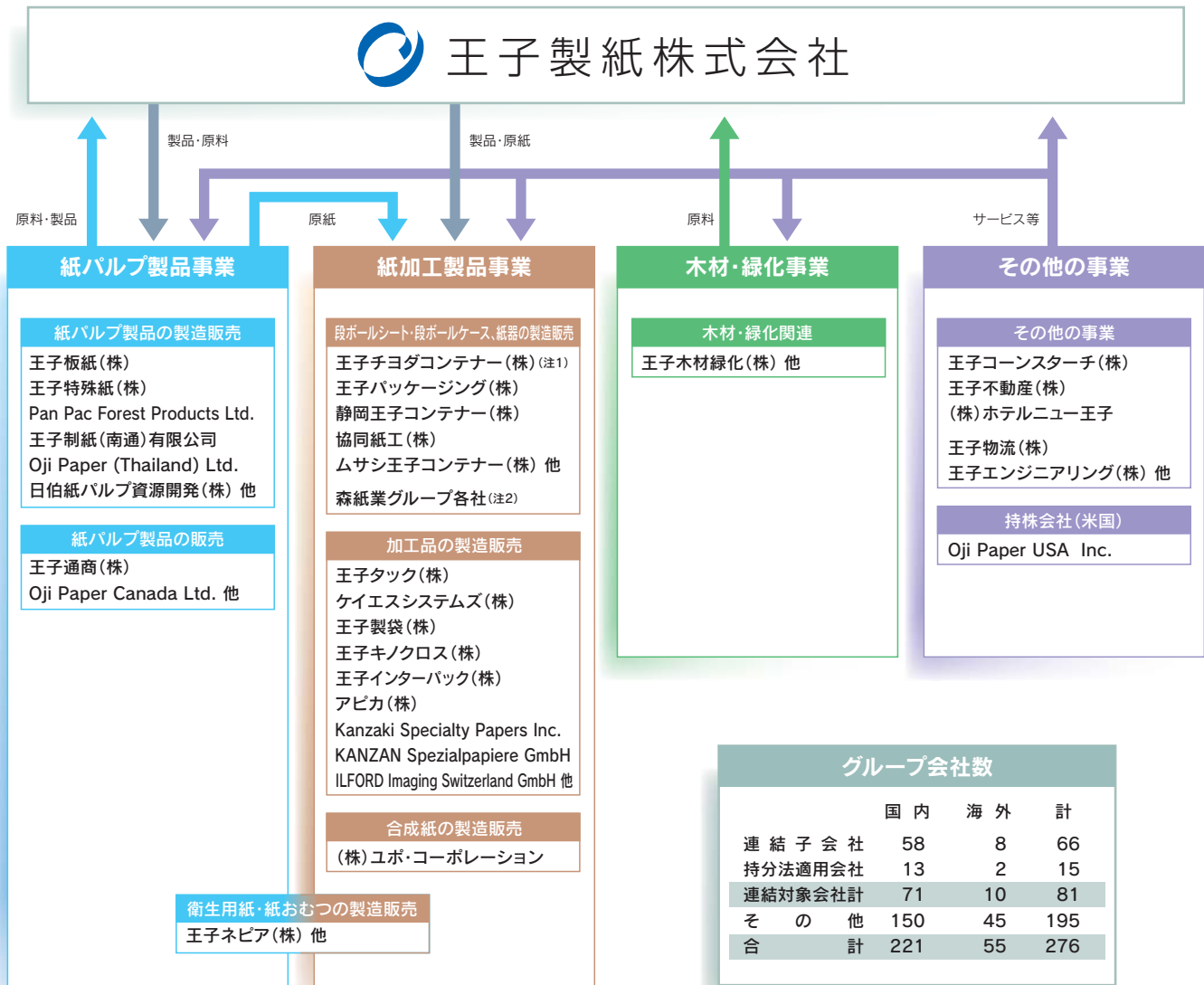


美瑛(北海道)社有林



# 王子製紙グループの概要

(平成17年10月1日現在)



グループ会社数

	国内	海外	計
連結子会社	58	8	66
持分法適用会社	13	2	15
連結対象会社計	71	10	81
その他	150	45	195
合計	221	55	276

(注1) 本年10月1日付で王子コンテナ株式会社とチヨダコンテナ株式会社が合併し、王子チヨダコンテナ株式会社が発足しました。  
(注2) 本年12月を目処に、森紙業グループ各社は当社グループに加わる予定であります。

(注) グループ会社数には、森紙業グループ各社を含めておりません。



# 環境への取り組み

当社グループは、植林事業を積極的に展開する「森のリサイクル」と古紙資源の一層の活用を進める「紙のリサイクル」を実践する資源循環型産業を目指しています。

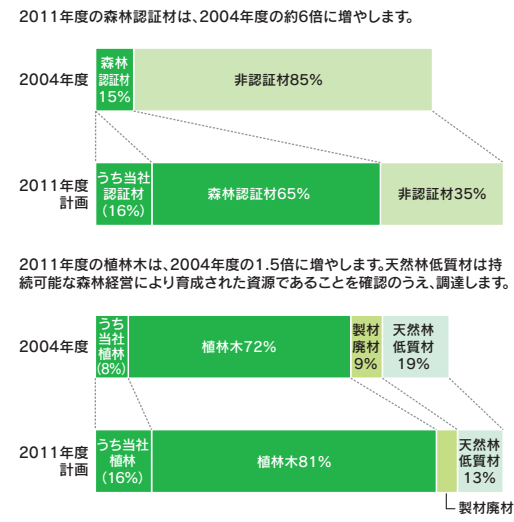
環境と調和した事業活動を行い、文化に貢献できる企業であり続けるために努力している当社グループの活動の一部をご紹介します。

## 木材原料の調達方針を公表(4月)

紙の原料となる木材は、再生産が可能な優れた資源です。その木材原料の調達にあたっては、持続可能な森林経営によって育成された木材であることなどを条件にした「木材原料の調達方針」を策定し、グリーン調達を推進しています。調達の指針は、以下の5点で構成されています。

- 1 森林認証材の拡大**  
自社海外植林事業での森林認証の100%取得を目指すとともに、認証材を優先的に購入します。
- 2 植林木の増量、拡大**  
自社海外植林事業を拡大するとともに、外部購入においても植林木を増やし、原料中の植林木比率を高めます。
- 3 未利用材の有効活用**  
資源活用の観点から製材廃材などの有効活用を推進します。
- 4 原料のトレーサビリティの確保**  
木材原料の出所を遡り、原料が適正に管理された森林より生産されたものであることを確認します。特に違法伐採による木材は購入しません。
- 5 情報公開**  
調達指針の実施状況について概要を公開します。

## 輸入チップにおける森林認証材と植林木の増量計画



## 太平洋経済委員会(PBEC)の第7回環境表彰で金賞を受賞(6月)

PBECは環太平洋20か国の実業人で構成される民間国際組織であり、企業活動と環境保全活動を両立させ、顕著な成果をあげている会員企業を表彰するものです。当社は2002年の第4回表彰の銀賞受賞に続き、2度目の受賞となりました。今回の受賞は、海外植林活動、古紙の利用促進、化石燃料の使用量削減、グラウンドワーク活動、国連のグローバルコンパクトへの参加などが総合的に評価されました。



## 王子製紙グループ環境展2005開催(9月26日から10月1日まで)

「王子製紙グループ環境展2005」には、2,000名を上回る方が来場されました。今回の環境展では、当社グループが目指す資源循環型ビジネスモデルをご紹介します、企業活動の根幹と位置付けている植林事業と木材原料の調達方針についてご説明しました。また、9月27日には王子ホールにて環境講演会を行いました。



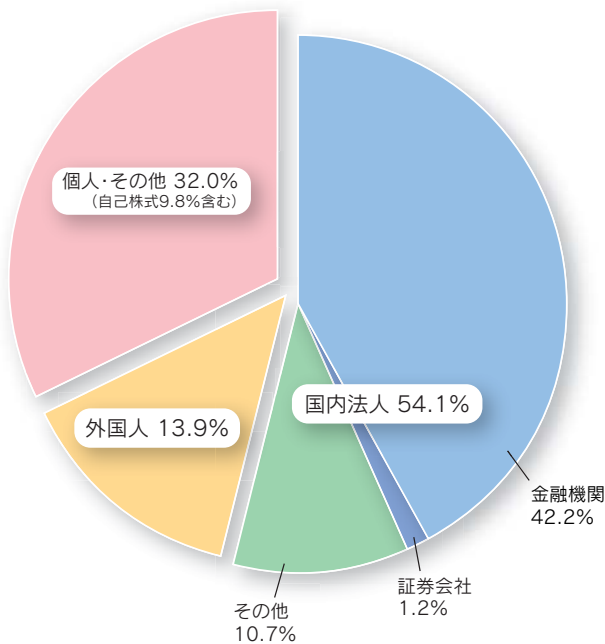
# 株式の概要

(平成17年9月30日現在)

## 株式の状況

- 発行する株式の総数 2,400,000,000株
- 発行済株式の総数 1,064,381,817株
- 株主数 105,742名  
(前期末比1,551名増)

## 所有者別持株比率

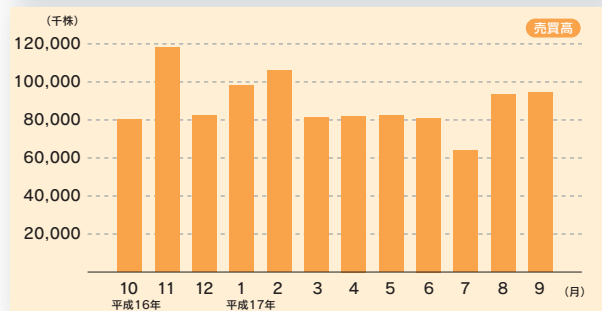
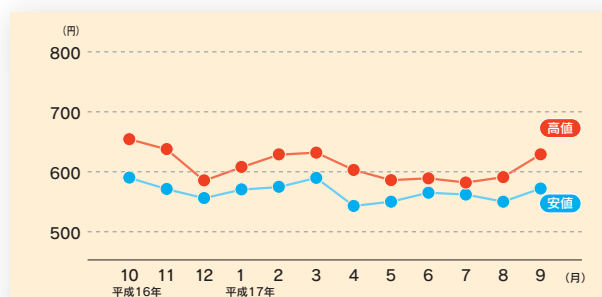


## 大株主 (上位10名)

大株主の氏名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	57,374	6.1
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	47,241	5.0
三井住友銀行	31,668	3.4
新生銀行	30,371	3.2
日本生命	28,697	3.0
みずほコーポレート銀行	28,498	3.0
農林中央金庫	26,654	2.8
王子製紙株式保有会	17,910	1.9
日本紙パルプ商事	17,216	1.8
中央三井信託銀行	16,478	1.8

(注)・当社は自己株式を104,613千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
・千株未満は切り捨てて表示しております。

## 株価・株式売買高の推移 (東京証券取引所)



# 会社の概要

(平成17年9月30日現在)

- 商号 王子製紙株式会社
- 本社所在地 東京都中央区銀座四丁目7番5号
- 設立 昭和24年8月1日 (財閥解体前の創業 明治6年2月)
- 資本金 103,880百万円
- 主な事業内容 (グループ会社によるものを含む)

- 紙パルプ製品事業  
一般洋紙、包装用紙、雑種紙、衛生用紙、段ボール原紙、白板紙及びパルプなどの製造、加工並びに販売
- 紙加工製品事業  
段ボール(段ボールシート・段ボールケース)、紙器、プラスチックフィルム、感熱記録紙、粘着紙及び紙おむつなどの加工品の製造並びに販売
- 木材・緑化事業  
木材製品の製造並びに販売、国内外での植林事業並びに社有林の維持管理
- その他の事業  
コーンスターチの製造並びに販売、社有地の活用による土地及び建物の賃貸、倉庫業、各種機械類の設計・製作・据付等

## 役員

代表取締役会長 大 國 昌 彦	※常務取締役 金 丸 吉 博	常任監査役(常勤) 桜 井 省 吾
※代表取締役社長 鈴 木 正 一 郎	※常務取締役 篠 田 和 久	監査役(常勤) 花 田 心 弘
※代表取締役副社長 渡 邊 昭 三	※常務取締役 山 本 信 能	監査役 竹 内 洋
※専務取締役 中 野 誠 久	※常務取締役 奥 島 俊 介	監査役 村 山 徳 五 郎
※常務取締役 関 口 直 俊	※常務取締役 関 口 裕	

※印の取締役9名は、執行役員を兼務します。

常務執行役員 佐 伯 節 夫	執行役員 渡 邊 純 太	執行役員 山 中 一
常務執行役員 井 上 徹	執行役員 橋 本 経 男	執行役員 大 澤 純 二
常務執行役員 橋 本 晃	執行役員 林 孝 治	執行役員 川 上 博 司
常務執行役員 寺 島 靖 裕	執行役員 神 田 憲 二	執行役員 木 塚 浩
常務執行役員 梶 田 淳	執行役員 石 田 隆	執行役員 橋 本 浩 樹
常務執行役員 水 島 貞 夫	執行役員 渡 辺 正	執行役員 加 村 喜 久 男
執行役員 原 田 二 郎	執行役員 平 井 文 彦	執行役員 枝 川 知 生
執行役員 近 藤 晋 一 郎	執行役員 重 谷 恒 久	執行役員 安 藤 温
執行役員 林 秀 明	執行役員 石 橋 道 弘	執行役員 落 合 行 雄
執行役員 齋 藤 源 二	執行役員 鏡 哲 夫	

## 主な事業所

- | 王子製紙(株) | 王子ネピア(株) | 王子板紙(株)  | 王子特殊紙(株)  |
|---------|----------|----------|-----------|
| 1 釧路工場  | 11 苫小牧工場 | 14 名寄工場  | 25 江別工場   |
| 2 苫小牧工場 | 12 名古屋工場 | 15 釧路工場  | 26 第一工場   |
| 3 江戸川工場 | 13 徳島工場  | 16 日光工場  | 27 富士宮事業所 |
| 4 富士工場  |          | 17 富士工場  | 28 芝川工場   |
| 5 春日井工場 |          | 18 松本工場  | 29 富士工場   |
| 6 神崎工場  |          | 19 中津川工場 | 30 岩淵工場   |
| 7 米子工場  |          | 20 恵那工場  | 31 静岡工場   |
| 8 呉工場   |          | 21 祖父江工場 | 32 中津工場   |
| 9 富岡工場  |          | 22 大阪工場  | 33 滋賀工場   |
| 10 日南工場 |          | 23 大分工場  |           |
|         |          | 24 佐賀工場  |           |



## 従業員の状況(連結)

区 分	従業員数	前期末比増減
紙パルプ製品事業	8,552名	147名減
紙加工製品事業	5,771名	348名増
木材・緑化事業	547名	16名減
その他の事業	2,610名	49名減
共通	1,267名	23名減
合 計	18,747名	113名増
王子製紙単独	4,880名	104名減

(注)・「共通」には複数事業部門に共通する業務に従事する人員を表示しております。  
・嘱託等を含む就業人員を表示しております。